



平成28年（2016年）第1回市議会定例会が開会され、石阪市長は3月1日の本会議で施政方針を表明しました。ここでは、その概要を掲載します。全文は町田市ホームページでご覧いただけます。

企画政策課 ☎724・2103 FAX050・3085・3082

2016年度の市政運営の視点

今、誰もが経験したことのない人口減少・超高齢化社会の到来を目前に控え、市政運営は大きな転換期に直面しています。

これまで当たり前であったことが、通用しなくなる時代の入り口に立っていることを実感しており、本格的な人口減少社会を見据えたビジョンが必要となっています。

町田市の人口は、2020年をピークに減少を始め、2035年までは40万人を維持しますが、2060年には34万3000人まで減少します。

人口構成は、より急激に変化します。75歳以上の後期高齢者が人口に占める比率の伸びは著しく、2015年の11.2%に対し、2035年には18.3%、2060年には26.3%まで上昇します。家族のあり方も急激に変化します。平均寿命の伸長、未婚化の進展により、夫婦と子

どもで構成される世帯の比率は激減し、認知症高齢者や単身高齢者世帯の比率が急速に増加します。

人口減少、人口構成の変化、家族のあり方の変化は、市の行政運営に大きな影響を及ぼし、行政サービスの役割やあり方を見直す段階にきています。個々の自治体が、将来の人口の維持に挑戦し、そのまちで暮らすことの魅力を競い合う時代が来たのです。

このような認識から、人口の現状と将来の展望を示す「町田市人口ビジョン」を策定し、町田市が将来にわたって成長し続けるための課題と対応策をまとめました。

人口減少社会に挑戦するためには、さまざまな政策を組み合わせ、早急かつ重点的に実施していかねばなりません。その際に、軸となる考え方を2点挙げたいと思います。

1点目は「若い世代にとっての魅力づくり」を政策軸に置くことです。町田市は、若い世代から選ばれるまちとして、新たなブランドを確立し

ていく必要があります。未来を担う若者が、「町田であれば、子どもを育てることの素晴らしさ、楽しさを実感できる」「町田に住めば、子育てをしながら意欲や能力を十分に発揮でき、多様なライフスタイルが実現できる」と感じられ、「町田で暮らしたい」と思えるような施策を、総合的に推進していかねばならないと考えております。

2点目の政策軸は、「町田の地域資源を活かした、町田ならではの地域活性化」です。町田市の地域資源を活かした観光振興に取り組みすることで、訪れた人が安らぎや喜びを感じられ、感動が得られるまちを目指したいと思えます。

「町田駅周辺プロジェクト」では、2016年度に町田市中心市街地まちづくり計画を策定し、中心市街地のまちづくりを再スタートさせます。この計画は、厳しい都市間競争の中で、町田市が埋没せず、人々に選ばれ続けるまちとなるための道しるべとなるものです。

水質改善を目的とした薬師池公園の池のかいぼり

多くの人を引き付ける景観や伝統文化を育み、更に磨き上げることで、市民にも市外の人々にも町田への愛着を持っていただく。そのような「人と人をつなぐ」観光振興、地域活性化に取り組んでまいります。

2016年度の重要な取り組み

「未来づくりプロジェクト」

「地域社会づくりプロジェクト」では、9つの地区で地区協議会が設立されました。今後、市民・企業・行政が同じ目標・意識を持って地域経営に取り組みるように、長期地域計画を策定します。

「団地再生プロジェクト」では、2015年10月に学校法人桜美林学園と「旧本町田西小学校及び旧本町田中学校跡地の活用に係る基本協定」を締結しました。大学を人々のつながりの中心として、常に新たな交流が生まれる空間を創造し、団地再生まちづくりを推進してまいります。

「基幹交通のプロジェクト」では、多摩都市モノレールの町田方面延伸と小田急多摩線延伸について、国の交通



多摩都市モノレール 町田方面延伸機運醸成事業でギネス世界記録®を達成しました

政策審議会の答申がまもなく出されます。この答申で「整備について優先的に検討すべき路線」として位置づけられることを想定して、関係自治体や事業者との協議等に取り組みます。

「資源循環型施設」

町田リサイクル文化センターにおいて、新たな熱回収施設等の整備が始まります。焼却施設、バイオガス化施設、不燃粗大ごみ処理施設を一体的に整備し、各機能を相互に関連させることにより、効率的なごみ処理を行います。

2016年度の主要な施策

将来を担う人が育つまちをつくる

2016年4月に、市内5館目の子どもセンターとなる「子どもセンターまあち」が中町にオープンします。中心市街地にあることから、中高生や乳幼児親子向けの機能が充実した施設となるよう準備を進めております。

また、今後は、5つの子どもセンターから一定の距離がある地区に、中学校区単位で子どもクラブの整備を進めます。2016年度は、町田第三中学校区内で子どもクラブの整備に着手します。

教育環境の整備では、町田第一中学校の改築に向け、基本設計を実施します。また、夏季の猛暑対策として、小・中学校の理科室、家庭科室等の特別教室に空調設備を設置し、学習環境の向上を図ります。



4月、中町にオープンする子どもセンターまあち

安心して生活できるまちをつくる

町田市の刑法犯認知件数は、2012年に4493件でしたが、2015年は3386件と、マイナス25%の大幅な減少をしています。

これは、地域の皆さんの1年を通じた地道なパトロールや啓発活動の成果であると思っております。今後も、市民の皆さんの目に見える防犯活動を積極的に推進し、体感治安の改善を継続してまいります。

これからは、高齢者単独世帯や認知症高齢者が、急激に増加します。生活支援や介護など公的サービスへのニーズが飛躍的に高まることが想定

されます。団塊の世代が75歳となる2025年をめぐりに、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを実現したいと考えております。

この新たな地域の支えあいの体制作りに向け、市内12か所の高齢者支援センターに「生活支援コーディネーター」を配置し、地域に不足するサービスの創出や担い手の養成などに取り組みます。

玉川学園コミュニティセンターは、建て替えに向け、基本・実施設計を行います。2017年度に着工し、2019年7月のオープンを目指します。

賑わいのあるまちをつくる

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、町田市は出場選手らのキャンプ地招致を目指しています。キャンプ地招致を実現することで、例えば、子どもたちは世界トップレベルのスポーツを身近に体験したり、キャンプ実施国との交流などができます。

また、オリンピック・パラリンピックは文化の祭典でもあります。2016年度に「町田市文化プログラム推進計画」を策定し、2020年に向けて、地域の文化や魅力を紹介するプログラムを展開し、外国人も含めて市内の人々を魅了していきます。

市民の皆さんのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

暮らしやすいまちをつくる

町田の南の玄関口である南町田駅周辺の再整備が始まります。この再整備は、官民連携により、民間の柔軟で優れたアイデアを組み込みながら、駅前のみどり豊かな公園と大規模商業施設が融合した空間づくりを目指します。

また、南町田駅南北自由通路の整備や、東京急行電鉄株式会社による駅舎の改修なども運動して進み、駅自体も新しく生まれ変わります。2016年度には北口駅前広場の整備され、町田駅方面などの路線バスや空港行きバスが乗り入れるなど、広域交通ネットワークの拠点としても位置付けられます。

むすびに

これまで、道を切り開いていくために、次の時代につながる「これから」を見つめ、新たな種を蒔き続けてきました。その時いた種を育て、輝ける未来へとつなげていくためには、人口減少社会への挑戦、理想の未来へ向けた挑戦、選ばれた町田市への挑戦を続けていかねばなりません。

先人たちが育んできた地域の知恵、知識、郷土への愛を政策に結びつけ、今こそ市民・企業・行政それぞれの英知を集め、挑戦し続けることで未来を切り開いてまいりたいと思います。